

学校評価計画

令和4年度 学校自己評価シート

福生市立福生第六小学校 校長 榎並 隆博



学校教育目標 ◎よく考え進んで行動する子ども(知:問題解決力) ○心豊かで協力し合う子ども(徳:人間関係形成力) ○健康でねばり強い子ども(体:体力・実践力)

目指す学校像(ビジョン・ミッション)

<p>①保護者・地域・関係機関・教職員が「子どものために」を合い言葉に、児童の「生きる力」を育む学校</p>			
<p>【目指す学校像】</p> <p>①意欲をもって学習に取り組み、達成感をもたせられる楽しい学校(児童)</p> <p>②子どもを安心して任せられ、協力・参加したくなる学校(保護者)</p> <p>③地域のコミュニティの拠点として親しみを感じ、協力・参加したくなる学校(地域)</p> <p>④子どもの成長を感じ取り、生きがいと自信をもって働ける学校(教職員)</p>	<p>【目指す教員像】</p> <p>①子ども一人一人を確かに見取り、個性と可能性を大切にできる教師</p> <p>②組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高め合う教師</p> <p>③熱心に研究に取り組み、実践力を高める教師</p> <p>④教育公務員としての使命感と高い見識をもつ教師</p>	<p>【目指す児童・生徒像】</p> <p>か 考える子 よく考え進んで行動する子ども</p> <p>め めげない子 健康でねばり強い子ども</p> <p>の 伸びる子 伸びる力を信じる子ども</p> <p>こ 心豊かな子 心豊かで協力し合う子ども</p>	<p>【その他 特記事項】</p>

領域	三カ年経営目標	本年度経営目標	目標達成のための方策	取組指標(教職員の取組)	取組自己評価				成果指標(児童・生徒等の定着・成果)	成果自己評価				分析・改善策		
					当初	中期	年間	評価		当初	中期	年間	評価			
学校運営・人材育成	①運営組織の整備 ②企画調整会議の適切な位置付けと運営	①経営会議・企画運営会議を柱とする学校運営の推進 ・主幹・主任の校務運営力の向上	会議の精選 経営会議の充実 文章起草システムの運用 校務分掌組織の整備	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	80	90	90	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回)	目標達成	80	80	90	A	・常に臨機応変な対応が求められた中、経営会議、企画調整会議において提案的な意見交流が行われ、機能的な学校運営となった。 ・コロナ対策を踏まえた効果的な取組が進められている。
		②OJT計画を着実に進め 教員としての授業力・校務遂行力等の基礎を確実に身に付けさせる	主任教諭を中心とした取組 日常的OJT 講義形式OJT研修 授業改善OJTグループ研修	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	80	80	90	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回)	目標達成	60	70	90	A	・主任教諭が主導し、OJT研修が進められている。今年度は、若手教員への支援が効果的であった。 ・年次研の指導案の作成においても、グループ毎に丁寧な指導がなされ授業力向上につながっている。
		③服務事故防止の徹底 (体罰等の禁止、会計事故、個人情報管理、交通事故等)	服務事故防止研修 日常的声かけ 服務事故の紹介 問題提起	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	80	90	95	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回)	目標達成	60	80	100	A	・主任教諭が中心に服務事故防止研修の講師となり教員の理解啓発が進んだ。 ・服務事故の背景を考えさせることで、事故を防ぐための意識や行動について考えさせることができた。
学力の定着と向上	都水準までの学力の向上	①基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用能力を付けさせる	かめタイム(朝学習時間)の活用 宿題・家庭学習 「ふっさつ子スタンダード」の徹底 個に応じた指導	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	60	80	90	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回) 学力調査結果	目標達成	60	80	90	B	・改訂版「ふっさつ子スタンダード」の徹底を通して、授業規律の定着を図った。更なる徹底を図るため学年の発達段階を踏まえて活用を進めていく。
		②授業改善の取組	研究授業 授業改善推進プラン 週ごとの指導計画の活用 研修会への参加	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	60	70	80	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回) 学力調査結果	目標達成	60	70	80	A	・都教委指定の「授業改善推進拠点校」として「学びに向かう力」の育成に取り組み、学力調査の結果を基にした授業改善に取り組めた。
		③読書活動の推進	読書活動の取組 読書量 読書旬間の取組	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	60	80	90	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回)	目標達成	60	80	90	A	・毎週月曜の読書の時間や読書旬間の取組を進めることにより読書に親しむ児童が増えている。更に、読書量を増やしたり読書の質を高める取組を進めていく。
健全育成	①人権尊重と規範意識に支えられた「豊かな心」の育成 ②特別支援教育の推進 ③体力・健康の増進	①いじめのない学級・学校づくりのための未然防止と早期発見のための取組を推進	特別活動 SCの活用 縦割り班活動 児童理解タ会 いじめアンケート 道徳授業の充実	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	80	80	90	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回) いじめの発生と解決の様子	目標達成	80	80	90	A	・日常的な子どもたちのトラブルは多いが、教員一人一人が丁寧な関わりと深い児童理解に基づく対応ができた。これからも心を育てる取組といじめの早期対応を進めていきたい。
		②一人一人に応じた適切な指導の充実と関係機関との連携による特別支援教育の推進	特別支援教育 やまなみ教室、かめのこ学級との連携の状況 教員研修会の実施	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	80	80	90	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回)	目標達成	80	80	90	A	・定期的な支援委員会の開催により支援体制を整えることができた。また、支援の必要な児童への対応も進めることができた。OJT研修として特別支援教育の理解を図ったことから、教員の理解度は高まっている。
		③すすんで体を鍛え健康な体を育成する。	持久走の取組 体育授業の改善 体力調査の結果の活用	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	60	80	90	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回) 体力・運動能力テスト結果	目標達成	80	80	90	A	・縄跳び集会や持久走旬間の取組を通して、児童の体力向上への意欲は喚起できた。
特色ある学校づくり	①安全教育の推進 ②コミュニティ・スクールとしての機運を推進	①安全教育の推進	安全教育の推進状況 安全管理の推進状況	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	70	80	90	A	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回)	目標達成	70	80	90	A	・以前の東京都安全教育推進校としての取組が生かされ計画的に進めることができた。
		③コミュニティ・スクールとしての機運を推進	学校公開の回数及び取組状況 コミュニティ・スクール委員会の充実	年間2回の教職員による自己評価 A: 4段階の平均が2.9以上 B: 4段階の平均が2.5~2.8 C: 4段階の平均が2.5以下	目標達成	70	80	90	B	保護者による評価(年1回) 教員による自己評価(年2回)	目標達成	70	80	95	B	・コロナ対応でできなかった過去の実践事例を少しずつ再開することができた。

前年度の学校評価をいかして、4月時点でビジョン・ミッション、各目指す像、各目標、方策、指標を設定する。提出時期に応じて、その時点での達成度を%で自己評価欄に記入する。自己評価の評語は最終段階で、目標の5割未満はC、8割未満はB、10割未満はA、目標超えはOの標語を記入する。

領域例：学力向上策、生活・進路指導策、人材育成策、研究研修策、学校運営策、特色ある学校づくり策等